

とうきょうすくわくプログラム活動報告書

令和7年9月
妙福寺保育園 さくら組（4歳）

1、活動のテーマ 「風」

- ・夏の猛暑で外に出ることが難しい日が続いても、室内や身近に発生している風を発見したり、風が起こることで引き起こされる現象に気付いたりして触れ合うことができるため。
- ・秋や冬に外で風を感じた際に「夏の風は涼しい・冬の風は寒い」と感じ方が異なることに気が付くため。
- ・自分で起こす風と自然に吹く風があることに気が付き、その違いや性質を感じるため。

2、活動スケジュール

令和7年8月～9月

- 8月1週目 園内風探し探検隊・風会議
- 8月2週目 パラバルーン
- 8月3週目 風船リレー
- 8月4週目 風の音鑑賞会
- 9月1週目 風は何色？
- 9月2週目 線や身体で表現する風
- 9月3週目 戸外での風探し・風会議

3、活動のために準備した素材や道具、環境の設定

室内で風を感じる活動が多かったため、スズランテープを枝に付けたウインドーステッキで園内の風がある場所を探したり、うちわで風船を扇いでリレーをする遊びを行ったりと、風を可視化して遊ぶ活動を多く行った。また運動会の練習でパラバルーンを行っていたため、風遊びと結びつけて練習を行った。外に出ることができる日は、外で風の音を聞いたり、木や葉っぱの風のなびきを観察したりした。

保育室の入り口のドアに風になびくビニール素材の飾りを付け、風が入ってきた際に目で見えるようにした。ドアが開いている部分のみビニールが風で揺れる様子があり、子ども達は「踊ってる！」と表現してよく観察していた。クラスの前にある花壇に大きさの異なる風車を2つ設置した。大きい風車は強い風でないと回ることはないが、小さい風車は少しの風でもよく回り、風量によっての回り方の違いがよく分かった。外に出たり、テラスに居たりする時に、子ども達から頻繁に風が吹いていることの報告があった。風を可視できるものを多く設置する環境を作ったことで、子ども達の風への意識がより深いものになっていった。

4、探究活動の実践

<活動の内容>

- ・園内での風探し探検隊 ・風船リレー ・風会議 ・戸外での風探し
- ・パラバルーン ・風は何色？ ・線や身体で表現する風 ・風の音鑑賞会

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や教諭との関わり>

○風探し探検隊

風探しステッキを作り、2チームに分かれて園内の風を探しに行った。部屋の角やロッカーの中など、いろいろなところにステッキをかざしてみても風があるのか確かめている姿があった。エアコンの排気口や扇風機などの風が強いところや、壁に挟まれた通路、テラスに出た際の外の空気など様々なところで「動いてる！」と風が吹いている様子を目で見て感じ取っていた。人が歩くとステッキが揺れる、同じ場所でも高いところと低いところでは風の強さが違うといった発見もあった。



○風船リレー

自分で風を起こす経験ができるよう、2チームに分かれ、風船をうちわで扇いでゴールを目指すレースを行った。最初は風が強くなりすぎて飛びすぎたり、風が弱くて進まなかったりしたが、うちわを扇ぐ角度や強さによって風が変わることに気が付き、上手く運ぶために考えてうちわを使う姿があった。この活動の際に「うちわから出る風は冷たいけど口から出る風は温かい」「うちわで風強くやると音がする」と気がつく子がいた。

○風会議

探検隊の活動の中で「なんで風って吹いてるんだろう？」という声が子どもから上がった。全体で共有し、子ども達と一緒に考えて意見交換をすると「神様の吹く息だよ」「人が歩くときにスピードが出るようにかな」「太陽と風が仲良しで遊んでいるから」といった様々な考察が出た。中には「人間が暑くならないようにしてくれている」という意見もあったが、「寒い時も風あるよ」という声もあった。

また「風で（葉っぱやステッキのテープ部分が）なぜ動くのか」という疑問を抱いた子もあり、他の子が「虫が飛んだときに動くのかな」と自分の考えで答えていた。

その他にも、活動を行う中で子ども達から出た疑問や発見は子ども達と共有し、全体で考えた意見交換したりする機会を設けた。この活動によって子ども達の考察が深まっていた。

○戸外での風探し

暑さが落ち着いた頃から戸外でも風を感じたり発見したりする機会を設けた。どの子も「あそこが動いてる！」と積極的に風が吹いている場所を見つけていた。木が風になびいた際「上の葉っぱは大きく動いてるけど、下にある葉っぱはちょっとだけ動いてる」「風が木となかよしで、木と踊ってる」などという様々な発見があった。高いところにある葉っぱの方が大きく揺れてい

ることに対して「風は空から吹いてるからスピードが違うんだよ」と言っている子もいた。また、吹いている風がどんな音が子ども達に聞いてみると「カサカサ」「ビュー」「バツ」という答えが返ってきた。

○風は何色？

よく晴れていた日に「今日吹いている風が目に見えるとしたら何色だと思うか」という質問を子ども達に投げかけた。すると「晴れてるから白」という声が多く上がった。中には赤や黄金色という声もあった。「雨の日に吹く風は何色だと思うか」と尋ねると、「黒」「雷さんが風吹かせてるから黒」と答える子が多かった。

○パラバルーン

運動会で行うパラバルーンの練習を行う前に、バルーンも風で揺れたり膨らんだりしていることを話すと「いっぱい風捕まえて大きくする」「風と仲良しにする」と言って練習を行っていた。その後「膨らんでるときのパラバルーンは重い」「クラゲの時に風の音がした」と話す子がいた。子ども達の中で感触や重さで風を感じている様子が見られた。



5、振り返り

活動を行っていくなかで、風は実際には目に見えないものであるが、音が聞こえたり、感触があったり、風に運ばれた匂いを感じたりと、五感の様々な刺激に繋がっていることを感じた。また、風によって引き起こされる自然現象は身近に多く発生しており、そのことに子どもが自分たちの力で気が付く様子が印象的だった。例えば、雲が動いたり水面に波が起こったりする様子を見て「風が雲を動かしてる」と発見して声を発する子ども達の姿があった。風が吹くから雲は動き、水面には風の影響で波が起こると自分たちで気が付くことができたことは、風を扱って自然遊びを行ってきたことにより子ども達の気付きや考えが発展していったことを表している。

風は気温や季節、天気を問わず、室内に居ても屋外に居ても365日身近にあるものであり、自然に起こるものでもあるが、人工的にも起こすことができる。子ども達がそのことを知り、無意識で感じていたものを意識的に捉える様子が多く見られた。まずは興味を持ち、存在に気が付くことで子どもの探求心が広がっていくことを実感した。

今後季節が変わってきた北風が吹くようになっても、今回の自然遊びから広がった子ども達の興味に合わせて活動を深め、より自然に吹く風に焦点を当てて発見を楽しめるようにしていこうと思う。